

研究レポート No.854 岩手県農業研究センター

いちご無加温促成栽培には「紅ほっぺ」が適します

【1 成果概要】

いちご無加温ハウス栽培において、収量性に優れる促成向け品種は「紅ほっぺ」です。

- (1) 「紅ほっぺ」は現地慣行品種「カレンベリー」より4割程度増収します。
- (2) 「紅ほっぺ」の1果重は「カレンベリー」よりやや大きい傾向があります。

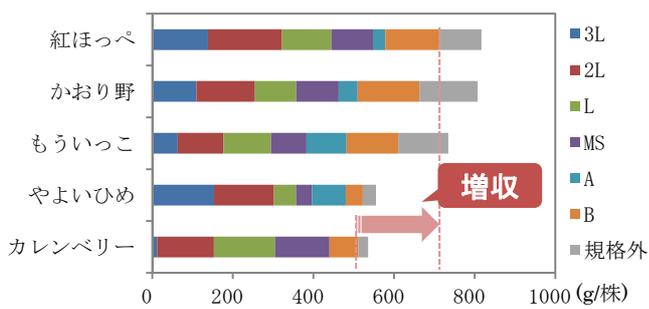


図1 規格別収量

果実が大きめ

品種名	商品果 1果重(g)	果実硬度 (gf)	糖度 (Brix%)	酸度 (%)
紅ほっぺ	12.8	36	10.4	0.71
かおり野	12.1	43	10.4	0.48
もういっこ	12.7	43	9.6	0.54
やよいひめ	17.6	42	11.0	0.60
カレンベリー	11.1	38	9.0	0.58

- (3) 「紅ほっぺ」は「カレンベリー」に比べ、単価が比較的高い時期（年内～3月）の収量が4倍以上となります。

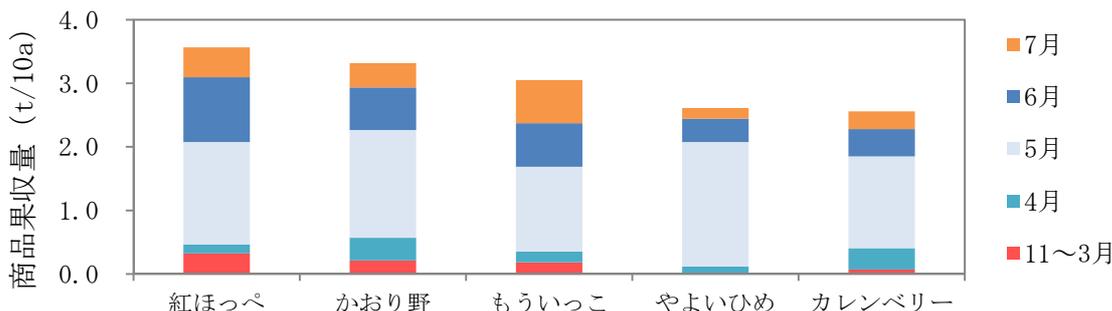


図2 商品果収量 (5000株/10a換算)

【2 留意事項】

- (1) この作型は9月頃に定植し、株元気温5℃以上を目標に10月下旬頃から保温を行います。保温が不十分だと休眠の進展による草勢低下や受精不良果の増加が起きます。
- (2) 「かおり野」の栽培に当たっては、品種育成元の三重県から生産許諾（有料）を得る必要があります。

【3 適応対象】

この作型は岩手県沿岸南部など、保温のみで株元気温5℃以上を確保できる地域及び施設に適します。

[参考図] 陸前高田市における最低外気温及び保温方法等による株元気温の違い

- 場内：鉄骨ハウス高設栽培、内張りなし、トンネル二重被覆（0.02mm 農 PO+夜間シルバーポリトウ）
- 現地：パイプハウス土耕栽培、内張り一重、トンネル二重被覆（0.075mm 農 PO）

